

【国際理解教育・開発教育セミナー '06】
～ 平和な未来(あした)をつくるために～
2006年2月11日・さいたま会場

開催趣旨

私ども埼玉国際協力協議会は、県内の国際協力・交流NGOや国際協力に関心のある個人などが集まったネットワーク組織です。アフガニスタン、ヴェトナム、マレーシア、ラオスなどに出掛けて行って交流や協力をしているNGOもあれば、県内にあって日本語教室や情報紙の発行など、在住外国人のために様々な支援活動をおこなっているNGOもあります。それぞれに目的や組織の形態は異なっていますが、私ども共通の願いは、「異なる様々な国の人たちと共生し、優しさで活気に満ちた平和な地球社会をつくっていききたい」ということです。



私どもの協議会は、1996年1月の発足以来、埼玉県国際課及び埼玉県国際交流協会との協働により、「彩の国さいたま国際協力フォーラム」を2000年まで毎年県内各地で実施し、「国際協力のために私たちに何ができるか」などについて、県民の皆さんと共に語り合い学び合ってきました。

折から学校では、2002年度からの「総合的な学習の時間」の本格実施に向け、様々な試みが開始されおり、また JICA (現・独立行政法人「国際協力機構」) では、海外協力に加え、「地域との連携」および「開発教育」にも重点を置き始めていました。そこで私どもは、2001年からは JICA と共催し、「総合的な学習の時間」などを活用した「子ども達のための国際理解教育・開発教育の推進」を目指し、教員と地域の人々 (NGO 関係者・学生など) を対象とした「開発教育指導者セミナー」を実施することとなり、昨年まで5年間にわたり毎年実施してきました。

さて、過去5年間の私どもの小さな努力を振り返りつつ、その間に生じた、或いはさらに悪化しつつある日本国内や世界の諸問題に目を向けるとき、それらは、世界の国々や人々の「相互の理解」や「思いやり(優しさ)」の不足が大きな要因となっているのではないかと考えざるを得ません。アフガニスタンやイラクだけでなく世界の各地で、戦争・紛争・テロ、深刻な貧困、災害などで苦しんでいる人々は更に増加しています。また、日本国内でも、私たちの安全な生活を脅かす様々な問題や犯罪が噴出しています。私たちは、今や、いかなる「人」も「国」も信じることができない不幸な状況にあるとさえ言えます。21世紀を担う子どもや若者たちに、もっと幸せな地球社会を引き継ぎたいと願っていたはずなのに・・・。

そこで、6年目を迎えた今回のセミナーでは、「国際理解教育・開発教育の究極の目的」は、単に異文化理解にとどまらず、「平和な共生社会をつくるため」「テロや戦争のない平和な未来(あした)をつくるため」に、「それぞれの立場で何ができるか」について、在住外国人の方々の参加もお願いし、共に話し合い学び合うことを主たるテーマと位置づけました。

去る1月29日の草加会場では、ルワンダ出身のマリールイズさんから、「文字が読めること、夜ぐっすり眠れる(平和である)ことの有難さ」などについて、熱く、そして切々と語っていただき、私たちの胸に強く深く染み渡りました。

本日の「さいたま会場」でも、ドイツ出身のカンバルテルさんの基調講演をはじめ、先生方の事例発表、午後の4分科会、振り返りの時間など、盛りだくさんなプログラムを通して様々なヒントを獲

得し、私たち参加者一人ひとりが、明日からの学校現場で、職場で、地域で、家庭で、「平和な未来（あした）をつくるために」何が出来るかを考え、出来ることから何かを実行していく「きっかけ」になっていただけたらと願っています。

埼玉国際協力協議会（通称・埼玉NGOネット）代表 尾嶋 佐和子